

キリスト教会葬儀研究所(CCFI)-2013年第1期・期末定例会報告

2013年4月1日(月)22:00~25:00

◆参加者：

高見晴彦, 岡田守生, 松谷信司, 中井大介, 他ゲスト1名

★中井大介氏(日本基督教団千里聖愛教会牧師)を研究員に加える。

◆今期主要議題：

「葬祭扶助制度と実務課題についての学習」

◆主要議題に関する報告：

★ウェブサイトに掲載しているテキスト「葬祭扶助制度解説」を基に、全員で葬祭扶助制度の概略を追った後、日本社会また特にキリスト教会において葬祭扶助制度を運用・利用する上で主に課題となるであろう三点を挙げ、それらを中心に討議した。

①制度を用いるかどうか

[設問要約] 自助努力やコミュニティ独自の支え合いがどの程度可能であり、どのような観点から制度利用を選択するか。特に教会ではコミュニティの自助的な支え合いを志向することが多いが、現実にこのような金銭的な扶助を常に継続していくことは不可能である。

[意見要約] 自助努力や支え合いも、また制度の利用も、確たる線引きを必要とするべきものではなく各個の教会や家庭、葬儀の事情により柔軟に検討するべきものである。ただしそれを必要とする人々にとって選択肢としうるために、教会や実務者がよく制度を存知していることが必要であるから、より分かり易い資料を作成し共有しておくことが望ましいといえる。

②制度が賄う程度をどう見るか

[設問要約] 制度のいう文化的な最低限度の葬祭というものはそれぞれのコミュニティにおける共通の理解が基軸になるものであるといえるが、日本のキリスト教会における必要最低限の葬祭といえるものは想定しうるだろうか。また葬祭のどこまでに費用を認め、どこまでを教会の奉仕とするかも問題となる。

[意見要約] 奉仕についてはそれを各人に強要することはできないが、無償でも喜んで引き受ける宗教者は少なくないだろう。ただし要請しやすい一部の人々に依存してしまわないよう、案件を振り分けて負担をコントロールするなどの方策を中継に立つ葬儀社も積極的に考えていかなければならないだろう。

③扶助を受ける者と受けない者の感情の逆転現象をどう処理するか

[設問要約] 近年のいわゆる生活保護バッシングなどに見られるように、特にギリギリで扶助の対象から外れ自ら労せざるをえない者が、扶助を受ける者に対して殊更に強い不満を抱くことがある。

[意見要約] 豊かさというものが単に経済的利益だけを言うのではないということは、日常の教

会活動等を通して丁寧に伝えていかなければならないことであろう。

◆次期主要議題：

- ★次期、2013年第2期定例会の主要議題は「**既存情報の編集に関する討議**」とし、CCFIの情報を必要とする教会や信徒またその他の人々に広く伝わりやすくするための具体的な方法について検討する。検討内容は主にウェブサイトの既存コンテンツの編集、冊子化の検討その他である。
- ★次々期、2013年第3期定例会の主要議題は「**教会役員・葬儀礼典に関する委員等向け情報の取り纏め**」を予定する。

◆その他の報告：

- ★「いのり☆フェスティバル2013」は2013年9月14日(土)に東京で開催される見通しとのこと。CCFIも例年通り参加予定とする。また臨時に名古屋方面でのフェスが開催される可能性もあるとのこと。

◆次回定例会予告：

- ★定例会の周期則を変更し、**奇数月第4水曜日の21:00から**とする。
- ★次回定例会議は5月22日(水)21:00からを予定する。